

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
4	川崎市立桜本中学校	溝部 晃

学校教育目標	今年度の重点目標
「自ら考え、学び合い、共に生きる」生徒 ○礼儀正しく、常に感謝する心を持つ生徒 ○心身を鍛え、強い意志と実行力を持つ生徒 ○知識・技能を修得し、豊かな情操と品位を持つ生徒 ○集団の中で、自主的に行動し、協力し合う生徒 ○すべての人を尊重する心を持ち、国際的視野に立つ生徒	人権尊重教育を全ての教育活動の基盤とし、キャリア在り方生き方教育の推進を通して、互いを尊重し仲間と支えあいながら、自ら学び考える態度を育てる。また、それらの活動を通して、学びの意義・喜びを実感させるとともに学習意欲を高め、自尊感情や規範意識を醸成する。 ○魅力ある「わかる授業」の推進と学力の向上 ○人権尊重教育の充実 ○支援教育の充実 ○教育諸課題への取組

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教育課程および学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程全般と授業における指導と評価について保護者へ周知する。 わかる授業を実践し、基礎的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 生徒一人ひとりの実態に応じた効果的な少人数指導の実施をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者面談等で教育課程や教科授業における指導と評価についての理解を図った。 各教科の指導目標に基づき、基礎的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成を図るための指導方法の工夫を行った。また、少人数指導等の実践により数学の基礎学力の定着を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「かわさき教育プラン」の基本目標である「自主・自立」「共生・協働」を基盤として「自ら考え、学び合い、共に生きる」生徒の育成をめざして、各教科、各領域においてキャリア在り方生き方教育を推進する。 少人数指導の実施教科で指導効果の検証ができるように、年間の指導の在り方等を考え、指導実践していく。
2 人権尊重教育	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生地域の特質を生かし、「共に生きる」人権尊重教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校体制で年間を通して、人権尊重教育プログラムの授業実践を進めた。6月30日と、11月19日には、校内授業研究会を実施した。12月18日にはふれあい館の館長の崔さんを講師に招き、人権に関する講演会を行った。研究を継続することにより得られる成果がある。今後さらに人権意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生の意識と態度を育むために、本校の「人権尊重教育プログラム」を現状の生徒や、環境の変化をふまえつつ、継続していく。
3 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導確認事項の共通理解や連携のとれた適切な指導と支援を徹底する。 一人ひとりの生徒を全職員で理解し、問題行動の未然防止の視点で指導にあたる。 教育相談を重視し、年間3回の相談期間(担任以外も可)を設定する。 スクールカウンセラーと連携し、保護者理解や保護者支援にも力を注いでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活行動面について、全職員で見守りながら、基本的な生活習慣の確立に向けて丁寧な指導した。 校内の毎週1回の主任会においては、具体的な手立てや取組について話し合い、よりよい学校生活を築けるよう推進した。 教育相談は毎回全員に実施することを原則とし、担任以外の教育相談も生徒の希望で可能とした。 学校の決まりの見直しを図り、生徒が主体的に学校運営に関われるように支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導事案が発生した時には、生徒指導担当を中心に、速やかに連絡を取り合い、事実関係の把握と指導の方向性を確認した。 生徒の希望に応じて担任以外の教育相談も可能とする体制を継続していく。 学級や学校の核となるリーダーを育成することで、校内規律の遵守や学校生活の改善を図っていく。 問題行動が起きた時に、その背景にある行動の意味や、個人的な事情に寄り添いつつ、指導や支援を心掛け、複数の職員で対応していく。
4 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 自己の進路についての関心を高め、各自の個性や能力の理解と伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学活・道徳・総合的な学習の時間等を通して、「自ら考え、学び合い、共に生きる」生徒の育成を図った。 「自分進路は自分で決める」このことを、前提に置きつつ、保護者と共に生徒の進路決定を後押ししていく。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア在り方生き方教育を推進し、学活・道徳・総合的な学習の時間等の年間計画等を検討し、自ら考え、学び合い、共に生きる生徒の育成に努める。 探究的な学習においても、生徒自らの疑問や課題設定などを指導、支援していく。

5	支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 支援教育への共通理解を図る。 特別支援学級及び通常級の特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズの把握とそれに対応する具体的な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援教育の指導体制への共通理解が深められ、授業担当の人員確保に努め、支援の対応を行った。 支援教育サポート事業を活用し、きめ細やかな支援ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員と支援教育サポーターの連携を通して、一人ひとりに応じたきめ細やかな支援をさらに充実させる。 指導体制の共通理解を深め、授業担当の人員確保に努め、支援の体制を継続する。
6	保健安全	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本となる生活習慣を確立する。 安全で安心できる生活が過ごせるように、学校全体の環境整備に努める。 自分の身体や健康状態について理解し、問題解決する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本となる生活習慣について、学級指導等を通して、継続的に指導した。 生徒の保健委員会を中心に、環境整備に気を配り、掲示物等の工夫・改善を行い、生徒の意識の変容を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立や学習意欲の持続のためにも、日常の健康指導等を継続して指導する。 保健委員会等の生徒の活動を大切にし、自分の身体や健康状態について理解し、問題解決する力を促進する。
7	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりの定期的な発行により、保護者や地域へ積極的な情報発信を行い、本校の教育活動への理解に努める。 学校評価を学校運営に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを定期的に発行することで、行事や学校生活の様子等を伝えることができた。 学校評価アンケートの集計結果を踏まえ、学校運営の推進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 三者面談等での保護者からの意見や感想を学校全体で受けとめ、より良い学校づくりに努める。 学校だよりの配付や校舎内外の掲示板の活用で、来校者にも学校の様子を理解してもらえるように工夫や改善に努める。
8	運営組織	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌の連携による学校運営業務の円滑な推進を図る。 分掌ごとの活動目標の設定や実施計画を明確にする。 各会議のスリム化やノ部活動デー、成績処理や事務作業日の設定など、働き方の改善を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌の仕事内容を見直し、会議の合理化や職員各自の仕事内容等の確認を行った。 行事予定の見直しや、事務作業や成績処理の日程を組み込むことはできたが、時間外勤務時間の大幅な削減とまでは至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 細かい年間反省を行うことで、来年度の方向性を示し、分掌ごとの仕事が円滑に進むように確認を行う。 成績処理や部活動のあり方を検討し、働き方改革をさらに進めていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 学校だより等を通して生徒が中学校生活を頑張っている様子がよくわかった。 県大会に出場した運動部について、横断幕で広報したところ、称賛の声が届いた。 今年度は創立70周年記念の年であり、体育祭や桜華祭、そして記念式典において、生徒が伝統を重んじながらも、生き生きと活動していて頼もしいとの声をいただいた。 地域の方から、挨拶や、マナーをほめていただくこともあれば、交通マナーや、商店の前での行動等にクレームや指導をいただくときもある。 「生徒一人ひとりに丁寧に接している」という評価があった。今後も、生徒一人ひとりを大切に温かな関わりを大切に、日々の教育活動に努めたい。 創立70周年記念事業として、生徒が主体となって取り組んだ活動について、生徒の頑張りを褒めていただく場面があった。 学校評価アンケートから、家庭学習の定着について課題はあるものの、学校の授業に前向きな様子がうかがえると評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重教育を全ての教育活動の基盤とし、「かわさき教育プラン」の基本目標である「自主・自立」「共生・協働」を学校経営の柱に位置づけ、「自ら考え、学び合い、共に生きる」生徒の育成に向けて、日々の教育活動に取り組んでいきたい。 互いの違いを認め、互いを尊重できる、心豊かな子ども達の育成に努めている。人権尊重教育においては、3年間を見通したプログラムをより改善していきたい。校内授業研究会では、推進会議、指導案検討、プレ授業等を通して検討を重ね、当日の授業を実施した。次年度においても、「共に生きる」人権尊重教育に教職員全員で取り組んでいきたい。 キャリア在り方生き方教育の視点から、探究的な学びを意識させ、小中連携教育にも力を注ぎ、連携を深めたい。 ①小中の交流を深め、少しでも不安を解消し、希望をもって中学校へ進学できるように促していく。 ②小中9年間を通じて、「学び」を積み上げ、基礎的・汎用的能力の育成を図る。 次年度も一人ひとりを大切にする学校教育に取り組み、生徒・保護者のニーズを把握し、支援内容・支援方法を検討して指導実践に努めたい。 働き方改革の実現に向けて、会議の設定や、部活動の在り方等を検討してきた。来年度は最終下校時刻の見直しも検討している。教員の負担を軽減しつつ、ICTも活用して、今後もさらに、改善を図っていく